



特集 bjリーグ・プレーオフボランティア活動報告

2005年にスタートしたプロバスケットボールのbjリーグ、当初は6チームでしたが年毎にチーム数は増加し、2007年 - 2008年シーズンは10チームとなったことで東カンファレンス、西カンファレンスに分かれて順位を争い、それぞれの1位・2位のチームが5月3・4日東京有明コロシアムに集まり優勝チームを決めるプレーオフを行うことになりました。イベントの運営ボランティア募集があり、私たちも参加して来ました。



有明コロシアム外観と会場内

【 プレーオフの結果 】

東からは「仙台」「東京」、西からは「大阪」「福岡」がそれぞれ進出し、初日の3日は東同士・西同士で対戦、4日は勝ち進んだ「大阪」と「東京」が優勝争い、「福岡」と「仙台」は3位を争いました。プレーオフのファイナルはどれも接戦となりましたが最終的に大阪が3連覇しました。

< 優勝 大阪エヴェッサ 2位 東京アパッチ 3位 仙台89ERS >

【 ボランティアの活動 】

ボランティアの運営はbjリーグの主管のもとに、実際にはシミズスポーツのスタッフがボランティアの配置・サポートをしていました。まずコロシアムの南側会議室で受付すると配置場所の指示がありました。ここでスタッフ用のTシャツをもらって着用、その後先に着いていた仲間の案内で会場内のポイントだけを見学しました。プレーオフの会場となった「有明コロシアム」は1987年に作られた多目的スタジアムで、bjリーグでは東京アパッチのホームアリーナとなっており、変則な八角形の座席配置で油断するとすぐに位置(方向感覚)がわからなくなりそうです。入り口は東と西にあり、更に細かく席種が分かれています。まずは基本であるその席の大枠と、売店やトイレの場所を確認しました。



プレーオフディスプレイ



ファイナルのグッズショップ

しばらくして控え室に戻ると、その都度スタッフがきて、待機しているボランティアから何かを何かの業務のために呼んでいきます。開場(12時)が近づきよいよ場内案内(16名前後)の出番、水色のジャンパーをきたシミズのスタッフとともに会場内に移動、席種に関する簡単な説明の後「チケットの確認担当」と、「場内の案内の担当」となって配置に着きました。

場内の図面もなく、チケットの種類も不明ということでやや不安を感じましたが、お客様も随分慣れており、予想以上にスムーズに入場が進みます。席は2ゲーム分の表示が既にされていて、多くの観客は、自分が応援するチームの席の方向に流れていきます。

開場して1時間ほど経過したでしょうか、スタッフが来て交代で休憩をとるため業務を代わってという指示、次に担当したのは会場内から「関係者ゾーンへの入り口のチェック」となりました。IDの種類が思ったより多く注意が必要でした。

その後は、食事休憩の約20分を挟んで「北側関係者入り口チェック」「コートサイドの警備」「選手控え室前警備」「観客の入れ替えチェック」など30分から1時間単位で活動の場所と業務が代わりました。全てはシミズのスタッフの頭の中ということで、先が見えないという点、業務の内容はその都度の簡単な説明という点を除けば、いろいろな仕事を体験できたことは良かったと思います。

【ひと】

出来れば全国のボランティアと交流してみたい、それが参加の大きな動機でしたが、残念ながら参加したのは仙台からだけ、ということでした。それでも、bjリーグの窓口をしてくれた女性やボランティアの控え室でサポートしてくれた女性は、2008 - 2009シーズンから参加する「滋賀レイクスターズ」に勤めることが決まっているとのことで、場内にも「神奈川にbjリーグのチームを」という横断幕が掲示されていたりして、確実にプロバスケットボールの輪の広がりを感じました。また、このプレーオフのために数ヶ月前からインターンとして準備に関わってきたと女性もいて、いろいろな仕組みと人がプレーオフを支えているということを知りました。



もぎり・入場ゲート
配布担当



観客入れ替えの説明
この後、配置

ボランティアでは初日は約120名ほどの人が参加、その大半は専門学校生ということで現実に活動するのは初めてということのようです。3日は2ゲームいずれもが6千名を越える観客で、実にたくさんの人の力が運営を支えていること、さらに、多くの観客が楽しみながら応援している姿が印象的でした。

トピック 有明のエコ

ごみは「可燃・不燃」と「ペットボトル」「ビンカン」の3種類であり、ボランティアの控え室も含めエコ活動は今後の課題になりそうです。



【まとめ】

リーグが発足して実質3シーズン目が終わりました。順調にチーム数が増加し観客の盛り上がりが作られている反面、地域との連携・財政的な安定、そしてボランティア組織も含めた支える仕組みがより重要になってくると思います。

インターンシップ制やボランティア制については、大半のチームが積極的に取り入れていると聞きます。その人の輪をより有効に生かすこと、その芽は確実にうまれつつあります。そのため、出来ることならもっとボランティアの自主性を育て、活動を支援することや、ボランティアのネットワークを上手にリーグがサポートしてくれることを期待したいものです。

初めてのボランティアでも迷わずに楽しく活動に参加できること、それは初めての観客でも楽しく観戦できることに、つながる気がします。

【最期に】

尚、bjリーグの各チームのボランティアのURLについては、SVニュース4月号の8Pにまとめてあります。また、直近の活動情報で注目されるものについては、この5月号の5Pにまとめて掲載していますので、ぜひあわせてご覧ください。

トピック 選手村？

プレーオフの会場となった有明は、レインボーブリッジや台場など観光の名所ともなっている埋立地にあります。その最寄り駅である「有明テニスの森」でおりるとこんな看板がありました。そういえば東京は2016年の夏季オリンピックの開催地として立候補しており、この有明周辺は馬術・水泳・カヌー・ボート・自転車などの会場となることと予定されています。ちなみにサッカーは「札幌・大阪・横浜・埼玉」が会場となることを知っていましたが、世界最大規模のスポーツイベントの招致、さまざまな意見はあるでしょうが、実現したらボランティアとして参加したいものです。



東京オリンピック招致委員会ホームページ

<http://www.tokyo2016.or.jp/jp/>

東京都 東京オリンピック招致本部

<http://www.shochi-honbu.metro.tokyo.jp/>

ホームタウン共に「ジュビロ磐田ホームタウン推進協議会」

サッカーの日本代表の「中山・名波・藤田・奥・福西」などたくさんのお有名選手をかかえ、チームカラーの水色のユニフォームがJリーグを席巻したクラブがあります。その名は「ジュビロ磐田」、ホームタウンである静岡県磐田市は当時人口約8万人(現在は合併により約17万人)のまちでした。確かにサッカー王国静岡県にあって、実業団でも強豪といわれた「ヤマハ発動機」を核として誕生したクラブは、一見極めて順調に歩んできたかに見えます。しかし、その影にあるクラブを愛しサポートしてきた人々の活動を忘れてはなりません。

日本にプロサッカーリーグとしてJリーグが誕生したのが1992年、ジュビロの歴史は1991年「ヤマハ発動機プロ化とJリーグを誘致する会」が発足し、誘致のためのイベントや署名活動をはじめたことからスタートしました。長く磐田の青年会議所で理事長を務めていた乗松さんは「まちづくり」のひとつとしてその活動の只中に飛び込んだと言います。それは92年にリーグに対し申請した段階でくじりがついたかに見えました。が翌年リーグへの加盟が認められたのは同じ静岡県の「清水エスパルス」であり、一方でジュビロ磐田に対しては3つの条件が提示されたのです。

15,000人以上のスタジアム

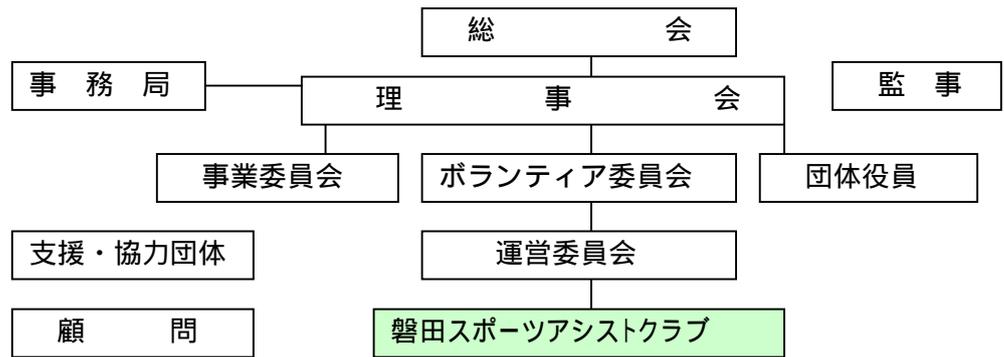
チームの2位以内の成績

地域の盛り上がり(協力)

以上、ジュビロ磐田ホームタウン推進協議会 HP より

これを受けて8月、青年会議所が主管となり「ジュビロ磐田ホームタウン緊急討論会」を開催し、新スタジアム建設の募金活動、Jリーグの署名活動、そして地域のさまざまな団体を巻き込んだまちづくり運動が進められました。そして11月16日、念願のJリーグ昇格が決定するのです。その結果、昇格に向けて連携してきた組織は名称を「ジュビロ磐田ホームタウン推進協議会」とし、次のステップに向け新しいスタートをきることになったのです。

< 図 ジュビロ磐田ホームタウン推進協議会 >



サッカーを通して街が人が生活が元気になってくれればいい。そして、チームと地域をサポートすることでJリーグで一番になりたい、その思いは現実的なサポートとしてボランティアを組織しゲームの運営を支援するという形につながっていきます。それが「磐田スポーツアシストクラブ」の活動であり1996年のことでした。当初は人が集まらず街頭や成人式でチラシを配布するなど苦労があったといいますが、Jリーグの人気と地道な活動が実を結び、更に1998年のJリーグの年間優勝も追い風となってやがて多くのボランティアが集まるようになったのです。「クラブとは活動については、お互いに話し合っていて決めています。問題点があれば解決に向けてクラブは理解を示してくれています。活動は、運営委員会を中心に自主的に行われているし、多くの世代(20代~70代)の人々が参加することで、世代間交流やいい意味でのしつけの場にもなっています」「そもそも地域のスポーツ文化の振興を目指し立ち上げたため、その後拡大したラグビーやジュビロマラソンのサポートにも問題は全くありませんでした。」と乗松さんは言います。

推進協議会としての課題はなんですか、という問いに対し少し考えてから「観客の動員数が減ってきていること、ボランティアの参加者が減ってきていること、プロチームが存在している意味を考えなくなってきたこと等でしょうか。それは広域合併によって1市5町1村が合併し、人口も8万から17万の町になったことで逆に求心力が散漫になったこともあります。20代前半世代のサッカーとの接点が非常に少なくなっていることもあります。それは、ブームを経験したのが小学生低学年以下の年代なのです。ですからこの状況が普通だと考えるべきかも知れません。磐田市では、全国女子サッカー選手権開催運営のため、アシストクラブとは別にスポーツボランティアの仕組みを作ったことも運営上多少影響があるかもしれません。サポーターもボランティアも年とともに年齢がアップし減ることはあっても新しい人の参加が少ないことが大きな問題」と乗松さんは分析します。「だから、まずは地域・サポーター・ボランティア・チーム・推進協議会間の風通しを良くすること、何よりチームの応援をしたいという原点を忘れずに、結果だけでなくジュビロというチームの存在意義、磐田のスポーツ文化を共有していければ」と。それは「創造的破壊が必要、いろいろなイベントは継続的に実施されているけれど単なる事業の消化になっていないか、どこかで検証する必要があります。その意味ではいつも活動自体、新しい活動だと意識することが大切。当時の何も無かった原点に戻って、役割や段取りでない、前向きな話し合いが必要と考えている」と言うのです。Jリーグが生まれて16年、磐田に限らずあちこちで支える組織や人にも世代交代の波が押し寄せていると感じます。少なくとも、そのことに目を向けて次のステップにしっかりと踏み出そうとしているそれが磐田の現状でした。

日本と韓国の共催で行われたワールドカップの前年である2001年、磐田には全国のJリーグのクラブを支える人々が集まり「第3回全国ホームタウンサミット」がジュビロ磐田ホームタウン推進協議会の主催で開催されました。それ以前のサミットとは違って、多くのクラブが参加し、何よりボランティアの参加が多く、その後の交流の基点となったイベントでした。子供たちの健全な成長のための取り組みや、スポーツ施設と文化施設の連携など、そこで報告され話し合われた内容は今もまったく色あせていません。常に先行して課題に取り組む「ジュビロ磐田ホームタウン推進協議会」の活動にこれからも注目したいものです。

バレーボールがもっと好きになる 「堺ブレイザーズボランティア」

先日終了したバレーボールV・プレミアリーグ 2007/2008 で、ボランティアスタッフによるホームゲーム運営の協力を行いました。これは、バレーボール界では初の試みで、V-M-S の企画に、プレミアリーグでは唯一のクラブチームである堺ブレイザーズの協力をいただいて実現したものです。



初の試みということで、どれだけの人数が集まるか、どこまで運営に関わるか、全てが手探りで始まりましたが、堺ブレイザーズの 5 回あったホームゲームと前日準備の際にボランティアスタッフを募集し、体験ボランティアと合わせると、のべ 120 名を越える参加者となりました。

前日準備では、席番の貼付けや会場案内板の設置、試合当日はチケットもぎりや、フライヤー配布、座席への誘導などをボランティアスタッフが担当しました。

こういった活動はバレーボールでは、協会が学校クラブや、地域のバレー愛好者に半ば強制的に依頼することが通例ですが、サッカーや野球、バスケットなど、プロスポーツでは当たり前になりつつあるスポーツボランティアとして、クラブチームとして、ファンとのより強い繋がりを求めている堺ブレイザーズだからこそできたことだと思います。

しかし、参加されたかたの多くはファンであることから、「私の大好きなチームに携われることがうれしかった。」「チームの勝利に役に立ちたい。」などの声がほとんどであることから、この試みは大成功だったと思います。

近日中には、堺ブレイザーズのホームページ <http://www.blazers.gr.jp/town/> にて当日の、模様は公開されると思いますので、よかったらぜひ、ホームページに遊びにきてください。

これからも、こういった活動を継続しておこなえるようにチームと話し合っていきたいと思っています。そしてこの活動がすべてのVリーグチームに広がることを願っています。

V-M-Sとは

V-M-Sとは「バレーボールを、もっと、好きになる」という意味です。

バレーファンである私達が、現状の男子バレーボールについて他のプロスポーツファンと比較したときに、まだまだ楽しみ方が少なく、もっといろんな方法でバレーボールをいつまでも楽しんでもらう方法があるんじゃないかという思いから立ち上げたプロジェクトです。

バレーボールについて、「見る・する・サポートする」というスポーツの楽しみ方の3大要素を知り、親しい友達だけでなく、バレーファン同士の様々な交流を持つことで、バレーファンの広がりや定着、そして新しいファンの拡大を目指しています。

「全てはバレーボールのために」それがV-M-Sの原点です。

みんなで会場で観戦したり、会場に行けないときにもスポーツバーなどでの観戦会、バレーボールを実際にプレーする体験会や練習会の開催など、バレーボールの具体的な楽しみ方を発信していきます。Vリーグや大学などのバレー情報ももちろんですが、前述のような情報もインターネットを通じて発信し、近い将来、実際にバレーボールファンが楽しめる場所をつくることも視野に入れています。

また、サポートする楽しみとしては、ファンクラブの運営や、Vリーグチームの試合会場にて、試合運営スタッフを取りまとめ、ファンの人々と「自分達のチームをサポートする」楽しみを提供します。

バレーボールの「昨日」を大切に、「今日」を楽しみ、「明日」に希望と夢を持って活動することを理念としています。

活動の実績 (抜粋 07 年分)

2007 年 9 月 「V-M-S」としてより深くバレーボールに関わり始める / 11 月東京新宿にて「全日本男子バレーボール観戦会」を主催

<http://www.v-m-s.net/index.php/archives/category/event/overevent>

Vリーグ、堺ブレイザーズ、月刊バレーボールなどのご協力もいただき、バレーボールでは初めての観戦イベントを開催。

ホームページ <http://www.v-m-s.net/> も立ち上げ、試合結果のみならず、独自に取材した選手や関係者・スタッフのインタビュー、選手のコラム、試合会場案内などの情報を掲載し、バレーボールファンのためのポータルサイトとして公開開始。

12 月 「2007/08V・プレミアリーグ」堺ブレイザーズのホームゲームにおいて、ボランティアスタッフの取りまとめを行う

所在地・連絡先等 団体名称 「V-M-S」公式 website: <http://www.v-m-s.net/>

お問い合わせ : vms@v-m-s.net 所在地 : 〒558-0056 大阪市住吉区万代東 4 - 3 - 2 5 - 3 0 4

代表責任者 竹内宏一 (kou1@v-m-s.net) 携帯 090-9704-0759

FROM 浜松

浜松・東三河フェニックス誕生

2008 - 2009年シーズンからプロバスケットボールのbjリーグに、42年の歴史をもつ「OSGフェニックス」を前身とする「浜松・東三河フェニックス」が参入します。事務所の開設、ヘッドコーチやチームロゴの決定、チアリーダーの募集などが次々に進められており、ボランティアの募集も近いと思われます。

浜松・東三河フェニックス ホームページ

<http://bj-phoenix.com/index.html>

ちなみに上記シーズン加わるもうひとつのチームが「滋賀レイクスターズ」、滋賀県初のプロスポーツチームとしてこちらもチーム作りがすすんでいます。

滋賀レイクスターズ ホームページ

<http://www.lakestars.net/>

FROM 新潟

バスケットでもエコ宣言

プロバスケットボールの新潟アルビレックスは、ホームゲームの中でエコ宣言を行い、地球温暖化防止のために公共交通機関での来場を呼びかけたり、温度頂礼など6つのアクションプランを作成、合計9回のエコスタンプラリーを実施(会場内の分別活動や地域の清掃活動)するなど、活発な取り組みをすすめています。

新潟アルビレックス・エコ関連ホームページ

<http://www.albirex.com/eco/index.html>

あわせてチームホームページ右のバナーでは2009年に開催される「トキめき新潟国体」のボランティア募集にリンクしています。

トキめき新潟国体ボランティアページ

<http://www.pref.niigata.jp/soumu/kokutai/volunteer/index.html>

募集は大会運営ボランティアが約4,800人、情報支援ボランティアが約560人、広報ボランティアとなっています。

FROM 東京

ボランティア募集のお手本

2007年 - 2008年シーズンで東カンファレンスを勝ち抜き2位となった「東京アパッチ」、くしくもプレーオフの会場は東京のホームアリーナである「有明コロシアム」でした。まだ、シーズンが終わったばかりということで、bjのどのチームもボランティア募集は行っていませんが、昨シーズンの募集のホームページが参考になるものでしたのでご紹介します。

東京アパッチ・ボランティアスタッフ募集ホームページ

<https://gt106.secure.ne.jp/gt106166/07-08volunteer/>

まずトップページの右に写真入のボランティア募集のバナーがあります。「わかりやすいこと」では一番ではないでしょうか。そこをクリックすると、活動の様子が写真で紹介されると同時に、経験者のインタビューがあります。これはあまりないスタイルですが、生の声ということで好感がもてます。そして募集要項、注目は対象となる方、単に年齢や参加回数の制限だけでなくこんな人を募集しています。なんとなく興味をひかれませんか。

みんなで(独りでなく)一体感をもって、何かを達成したい人 エンターテインメントの仕事(裏方の重要性)を体験してみたい人
社会貢献がしくて、ウズウズしている人 バスケットボールが”何より”も好きで、おもしろさを世に広めたい人
東京アパッチが結構スキ(かも)な人

FROM 島根

島根にプロバスケットボールチームを作ろう

プロスポーツのチームや興行を運営するための予算規模は野球・サッカーが大きく、バスケットボールは比較的ローコストといわれています。そのため、現在プロスポーツのない地域でbjリーグに参加するチームを作ろうという動きがあちこちで見られます。そのひとつが表題の島根、既に公式ブログを立ち上げ積極的に勉強しています。もともと中国地方にはbjリーグのチームがないことからこれからの動向が注目されます。

株式会社島根スポーツ振興会 公式ブログ

http://blog.livedoor.jp/shimane_bb/

日時 / 2008年4月5日(土) 12時45分～16時 場所 / 太白区中央市民センター 中会議室
 企画趣旨 / プロスポーツのイベントをサポートするボランティアは、一定期間の活動の歴史を踏まえて、さまざまな方向に広がりを見せてつあります。そのひとつは「幅広い種目」のサポートであり、「地域の課題」と向き合うことであり、自らがサポートするスポーツについて、より一体となって支援しようという動きです。一見無秩序にならべられた今回のテーマにはそんな思いがありました。



第1部 「東京マラソンをサポートする」 東京マラソン・ボランティア・リーダー 和智 章さん

最初のテーマは「東京マラソンをサポートする」と題して、今年の2月17日に開催され約3.2万人のランナーが走り、それを約1.2万人のボランティアがサポートした国内最大規模のスポーツイベントに参加し、リーダーとして活動した和智さんにお話しいただきました。和智さんご自身はサッカーのJリーグのFC東京のボランティアからスタート、地域のスポーツイベントまで積極的に活動されています。その経験を生かして昨年からの東京マラソンのボランティア活動に参加、事前の研修受講・レポート提出を経てリーダーとなり、今回はフィニッシュ地点で活動されたとのことでした。

規模の大きいイベントということで、「多くのボランティアが連携して動くシステム」「そのための研修と資格制度の導入」「レポートや報告書によるコミュニケーションと改善の取り組み」など、学ぶべきものは多くありました。あわせて、ネットによるさまざまな情報発信など主催者・参加者の意識の高さが目立ちます。終了後のボランティアに対する感謝の表明も含め、如何にモチベーションを維持し高めるか、これからのボランティア活動にとって大切な視点がそこにあります。

第2部 「災害ボランティアとの連携」

- (1) 災害ボランティアについて 仙台市災害ボランティアセンター 庄子 克彦さん
- (2) 災害におけるボランティア FMいずみアナウンサー 阿部 清人さん

5日のSV主催イベントのふたつめのテーマは「災害とボランティア」、これはそのまま宮城における地域の課題です。近い将来必ずくるであろう震災に対し、私たちは何をすべきか、全ての人に関わるテーマなのです。

講師はお二人、一人目は仙台市災害ボランティアセンターの庄子さん、最初に仙台市の災害ボランティアセンター設置のいきさつと、具体的な業務について、さらに、中越地震の柏崎の事例(写真)を説明しながら、センターと災害ボランティアの役割について話してくれました。リスクも伴い、自己責任・自己完結が求められる災害ボランティアは、決して楽なものではありません。一方で、前向きな気持ちさえあれば、必ず誰かの役に立つことができるのです。とはいえ、まず自らが被災者にならないこと、それが大事なのです。

二人目の講師は、FMいずみの阿部さん、現状の活動ではM-1で優勝した仙台出身のサンドイッチマンのイベント(ベガルタ戦)報告があり、その後、阪神大震災を背景に発達してきたコミュニティFMの役割について話がありました。そして、混乱を防止したり、不特定多数の人々を誘導するなどスポーツボランティアと災害ボランティアの共通性にふれて、今後の連携について提案がありました。お二人の話をきいて感じたことは、常に災害への備えをすることが必要であること、また、多くのスポーツ施設はいざというときには「避難所」や「物資の集積所」となる予定ということで、私たちにとってもやるべきこと・考えることは多くあると思いました。

第3部 「bjリーグ バスケットボールの基礎知識」

Bjリーグテーブルオフィシャル 柳田 傳子さん・佐々木 優美さん

三つ目のテーマは「bjリーグ・バスケットボールの基礎知識」でした。日ごろ仙台でのゲームを中心に公式記録をつけているテーブルオフィシャルのお二人を講師に招き、基本的なルールやファールについてお話しいただきました。

ゲームが始まってしまうとテンポの早い種目であり、何故審判が笛を吹いたのか、いくつかあるタイムアウトはどんな目的で、どの程度の長さでとられているのか、果たしてあとどれくらい時間がかかるのか、などお客様に質問されてもなかなか明確に答えることはできません。せっかくサポートの活動をしているのですから、全ては無理でも基本的なことは知りたい、そう考えて企画したテーマでした。もちろんボランティアとしてだけでなく、知っていれば観客としてよりゲームを楽しくみることもできます。確かに、オフィシャルハンドブックなどにも掲載されているのですが、文字からよりも、動きも交えて確認しながら聞くことはやはりわかりやすいと感じました。

確かに、ルールをしらなくても、極端に言えばチームやその種目について何も知らなくてもボランティアとして活動することはできます。けれど、より良いサービスを観客に提供(質問に正しく答えること)したり、自分自身が楽しく活動するためには、ぜひ、かかわるイベントの内容や結果にも興味を持ってほしいものです。プロバスケットボールの「仙台89ERS」のボランティアアンケートで、研修希望のトップは「バスケットボールの基礎知識」であったことは、そうした前向きなボランティアの多さを示していると思います。



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」（現在はJ2ベガルタ仙台）のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割（ミッション）

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動（アクション）

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円（年度は4月～翌年3月となります）
準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円
お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで（振込み料はご負担願います）
または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。（イベントはホームページでご案内します）
申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004
レターケースNO.50（必ずレターケースNOをご記入ください）
メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469
申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

多くのチームでボランティアを募集中です

サッカー J2 ボランティア < 各チームの公式ホームページより >

【ベガルタ仙台】ボランティアページ <http://www.vegalta.co.jp/volunteer/index.html>

【サンフレッチェ広島】広島市スポーツ協会ボランティアページ <http://www.sports-or.city.hiroshima.jp/attend/index.html>

【セレッソ大阪】ボランティアページ <http://www.cerezo.co.jp/support/index.html>

【湘南ベルマーレ】ボランティアページ <http://www.bellmare.co.jp/bellmare/view/s.php?a=820>

【モンテディオ山形】ボランティアページ <http://www.montedio.or.jp/mvs.htm>

【サガン鳥栖】アシストクラブページ http://www.sagantosu.jp/assist_club/indx..html

【FC岐阜】ボランティアページ http://www.fc-gifu.com/news/2008/04/post_235.php

【横浜FC】ゲームスチュワードホームページ <http://www.yokohamafc.com/clubinfo/steward.html>

【ヴァンフォーレ甲府】サポーターングスタッフページ <http://www.ventforet.co.jp/2008/supportingstaff/>

【アビスパ福岡】アビスパ福岡後援会ページ <http://www.avispa.co.jp/>

【徳島ヴォルティス】サポートスタッフページ <http://www.vortis.jp/info/index.html>

【ロアッソ熊本】スタジアムアテンダントページ <http://roasso-k.com/volunteer.htm>

【ザスパ草津】運営サポートスタッフ <http://thespa.co.jp/2008-support/support.html>

【水戸ホーリーホック】ボランティアページ <http://www.mito-hollyhoch.net/volunteer/index.html>

【愛媛FC】ボランティアページ <http://www.ehimefc.com/p/volunteer-top.html>

(注意) 内容は08年5月1日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略 >

竹内 宏一 梶原 由美 乗松 保臣 渡辺 英樹

**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)
を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場として
SVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

書籍紹介

「奇跡を起こす人になれ」

著者 池田 弘 出版社名 東洋経済新報社

以前から新潟のスポーツに注目していました。つい先日まで4万人のサポーターでピクスインを埋めていたサッカーチームがあり、プロバスケットのbjリーグの創設・運営をリードし、朱鷺メッセをやはり観客で満員にする地域、直近では同じアルビレックスという名前で、野球の独立リーグにチームを立ち上げてきている、それが新潟です。

それは、一人の男の地域のために何かできないか、という思いからスタートしました。地元の神社の息子として生まれ育った池田弘、彼はまず教育事業から取り組み、スポーツ事業に広げ、現在ベンチャー企業の育成に力を注いでいます。若者を育て、地元で定着するよう文化を作り、更に定着の受け皿となる企業を育てるということであり、決してバラバラではなく、相互につながっていることなのです。言葉で夢を語ることはできても実現することは簡単ではありません。この本は夢を現実にした男の話です。

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。また、毎月発行する「SVニュース」を定期的にご覧になりたい方は、所属・氏名・住所・電話番号・E-mailアドレスを記入の上、メールタイトルに「SVニュース購読」と記載のうえ下記アドレスにお申込下さい。

情報提供・定期購読申込先 izumita@dm.mbn.or.jp

編集後記

早いもので新緑の時期SVニュースもおかげさまで第3号です、3ヶ月といえばひとつの季節、決して短くはありませんが、こうして編集をしているとなおさら時の流れを早く感じるようです。作りながらもっと良いものにしたい、役立つものにしたい、と心から思います。

それにしても、全国には元気なボランティアのなんと多いことか、今回も寄せられた原稿には、そんな前向きなチャレンジがあふれています。思えば日本のスポーツが市民にこれほど近くて、従来はする人中心のものから、見たり・サポートしたり・交流したりと幅広い展開を見せていることは幸せなことですし、前例が無いだけにチャレンジのしがいもあるというものです。がんばったあとはその活動をSVニュースにもご紹介下さい。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。

<http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>